

小学部児童における、
「待つ」ことができることで、
不適切な行動を
減らすための指導

児童の実態

- 軽度知的障がい
- コミュニケーション
 - 受容：簡単な言語指示を聞いて活動することができる。
 - 表出：簡単な質問に答えることができる（「○○，どこにある？」など）。
- 周りのものや人に興味がある。
- 目新しいものに興味を引かれやすく，「やってみたい！」という意欲が強い。

- 自分の意思と周りの状況が一致しないときや活動の見通しが立ちにくいときがあると，大声を出したり周りの人をつねったり叩いたりする。
- 気持ちが高ぶりすぎると，周りのものを投げたり壊したり，教室の外へ出ようとしたりする。

不適切な行動の行動分析

行動の前の出来事

- ・見通しが立ちにくい時間（授業中の待ち時間など）
- ・途中で自分の活動が制止される

行動

- ・「トイレ行く！」と大声
- ・周りの人をつねる,叩くなどの他害

行動の後の出来事

- ・注意される
- ・制止される
- ・教員が近くに来る

その他：
ものを投げる, 教室外に逃げる, 握手を求める 等

行動の**増加**

保護者の願い

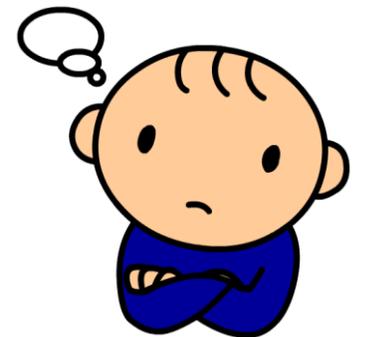
「衝動性をコントロールして、
お友達や周囲の人と仲良く過ごしてほしい」



デイサービスなどでもトラブルが
何度かあり、困っている。
家でも自分の思いが強く、要求が
通らないとすぐに叩いたりつねったり
して怒ることが多くなった。

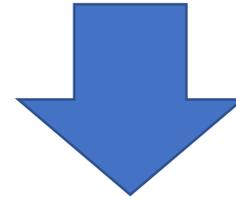
教員の願い

「気持ちが不安定になったとき
(または,なる前) に,自分で切り替えが
できたり, 落ち着けたりする方法を
見つけてほしい」





- ・ 先行現象をもう少し整理した方が良いのでは。
→ふさわしくない行動が起きやすい事前の出来事,時間帯など



- ・ 1・2週間記録を取り,ベースラインを取る。
(時間帯,離席回数,人を叩いた回数,前後の状況,教員の反応)

不適切な行動のベースラインの記録 (9/26~10/12)

9/27	13:30	③ 図2. 待ち時間提示 ↓ 「トイレ」	① 教員 「最後までいよう」 引よめた。	① 離席 ② 「トイレに行きたい」→「トイレに行く」 ③ 他客 7人(7) ④ 七折になる ⑤ 離席 ⑥ 絵本提示→「いらな」	⑦ 発表に なると 席に7人。 ⑧ おろついて 発表 終わる。
------	-------	-------------------------------	----------------------------	---	--

きっかけを大きく3つに分けて記録

- ① 教員の言葉かけ
- ② 友だちの突発的な大きい声
- ③ その他

記録方法

不適切な行動があったときに、
日付や時間、教員の反応を記録する。
複数回あった場合はその数や内容も記録し、
反応がある前の出来事も一緒に記録しておく。

考えられた他害のきっかけ

授業中の順番待ちや 次の活動へ移る前の 待ち時間

→ トイレに行こうとしたり、
「トイレ！トイレ！トイレ！」
と大きな声を出したりする。
更にヒートアップすると、つ
ねるなどの他害

同じ学級や学習 グループの児童の 突発的な声や不安定 になったときの声

→ しばらくは我慢しているが、
イライラが溜まると近くの人
をつねるなどの他害

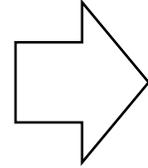
今回は…

授業中の順番待ちや
次の活動へ移る前の待ち時間

この場面について考えることにしました。

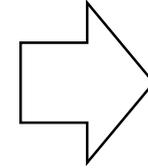
行動の前の出来事

- ・何をしたら良いのか分からない時間
(授業中の待ち時間など)



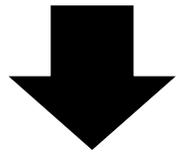
行動

- ・「トイレ行く！」と大声
- ・周りの人をつねる、叩くなどの他害

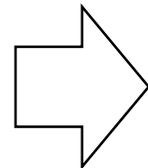


行動の後の出来事

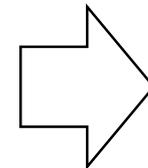
- ・注意される
- ・制止される



- ・「待ちグッズリスト」から好きな待ちグッズを選んで待つ



決められた時間まで待ちグッズを使って待つ



- ・「待てたね」と褒められる
- ・楽しい時間を過ごせる



- ・待ち時間のときの待ち方を工夫する。
→待ち時間に、好きなグッズ等を活用しながら待ってもよいということにする。（本を読む など）
「**待ちグッズリスト**」を作って選んでもらう。

待ち時間にコミュニケーションブック（リスト）を使用して、好きなグッズをリストのン化から選んで教員に伝え、その活動を行うことで不適切な行動が減るかどうかが比較する。

【指導目標】

待ち時間のときに、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選び、タイマーが鳴るまで待つことができる。

STEP 1

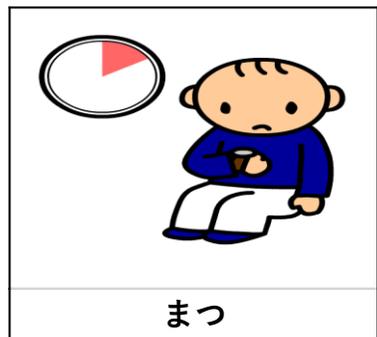
事前に定められた時間（「まつ」のスケジュール）に、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで一定時間待つことができる。

STEP 2

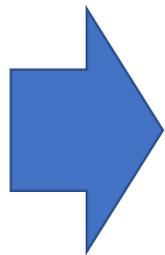
事前に定められていない急な待ち時間（例：給食前、トイレの順番待ち）に、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで一定時間待つことができる。

STEP 1

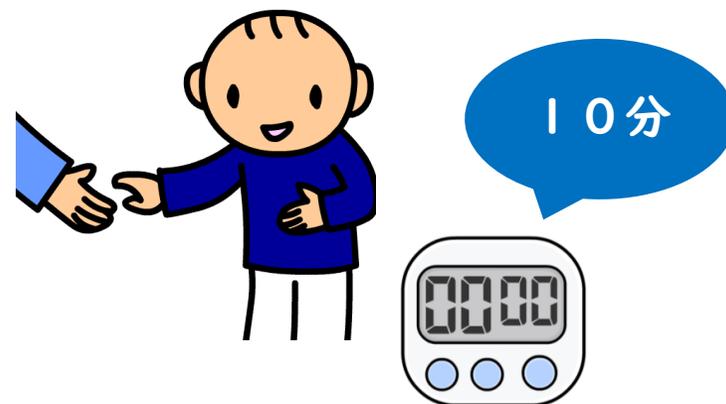
事前に定められた時間（「まつ」のスケジュール）に、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで一定時間待つことができる。



「まつ」の
スケジュール
カード



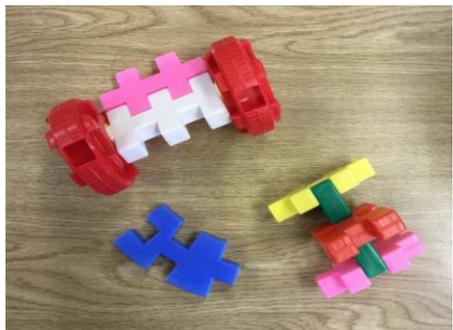
「待ちグッズリスト」を渡し、
「何をして待ちますか？」
と尋ねる



本児が活動を選べたら
その活動のグッズを
手渡してタイマーセット

☆ 今回はコミュニケーションブックの活用方法を学習することが目的ではないので、10秒ほど待ってグッズを選べなかったら、「先生が選ぶけどいいですか？」と伝え、教員が選択した玩具を手渡す。

「待ちグッズリスト」の種類



ブロック



たべものカード



おえかき



パズル



ぬりえ

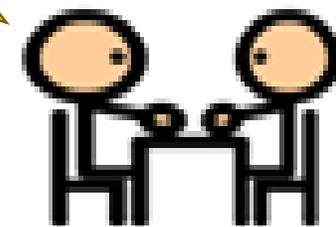


ひらがなパズル



ねんど

事前に対面課題学習
などで本児の反応
(好きなものかどうか) を確かめました



記録方法 (STEP 1)

2 : できた

1 : 言葉かけのプロンプトあり

0 : できなかった

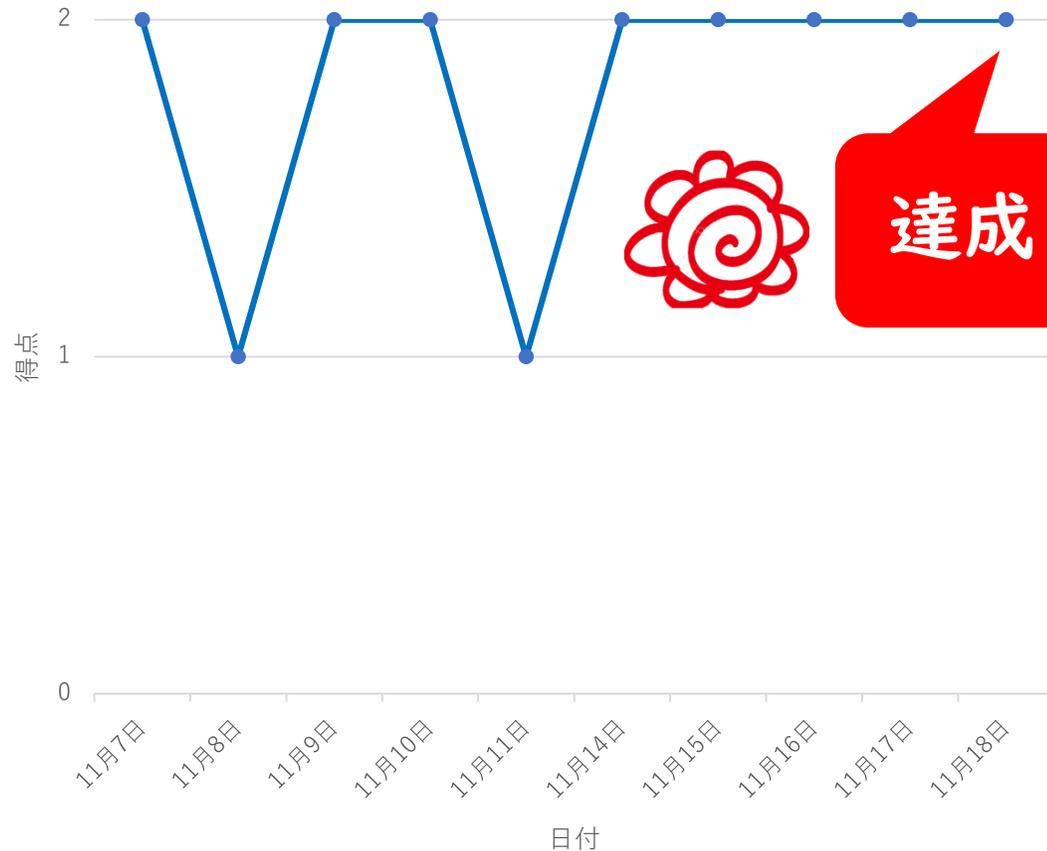
として、グラフ化する。

☆ 指導目標の記録とは別に、待ち時間か否かにかかわらず不適切な行動が何回出たかを記録する。

タイマーが鳴るまで待ちグッズを使用しながら席で過ごすことが
5日連続でできたら目標達成とする

結果 (STEP1)

事前に定められた時間（「まつ」のスケジュール）のときに、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで待つことができる。



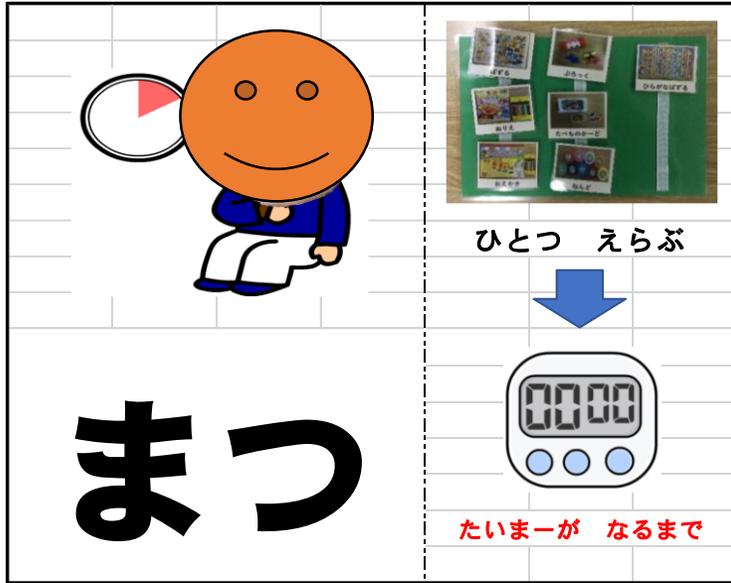
〔得点が「1」のとき〕
選ぶことはできたが、
待っている際に、言葉かけの
プロンプトを行った。

- 2：できた
- 1：プロンプトあり
- 0：できなかった



STEP 2

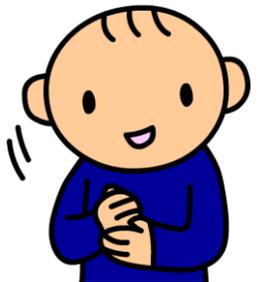
事前に定められていない急な待ち時間（例：給食前, トイレの順番待ち）に、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで一定時間待つことができる。



「まつ」カードを作成して
机の上に置く

⇒ 「待ちグッズリスト」と一緒に提示

今が何の時間なのか・何をしていたら正解なのかが
分かりやすい！

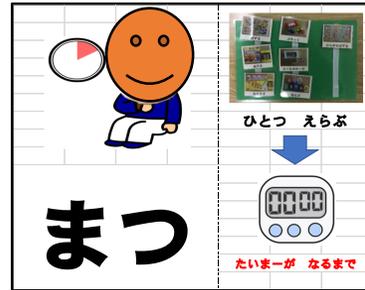


STEP 2

事前に定められていない急な待ち時間（例：給食前、トイレの順番待ち）に、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで一定時間待つことができる。

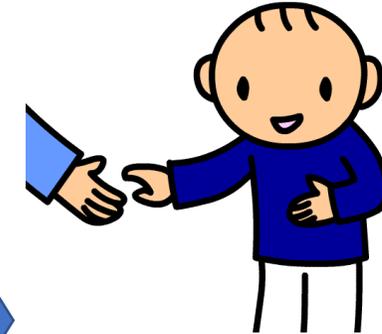


急な待ち時間（給食前、
トイレの順番待ち）が
発生



机の上に置く

提示



5～10
分



本児が活動を選べたら
その活動グッズを手渡して
タイマーセット

☆ 今回はコミュニケーションブックの活用方法を学習することが目的ではないので、10秒ほど待ってグッズを選べなかったら、「先生が選ぶけどいいですか？」と伝え、教員が選択した玩具を手渡す。

記録方法 (STEP 2)

2 : できた

1 : 言葉かけのプロンプトあり

0 : できなかった

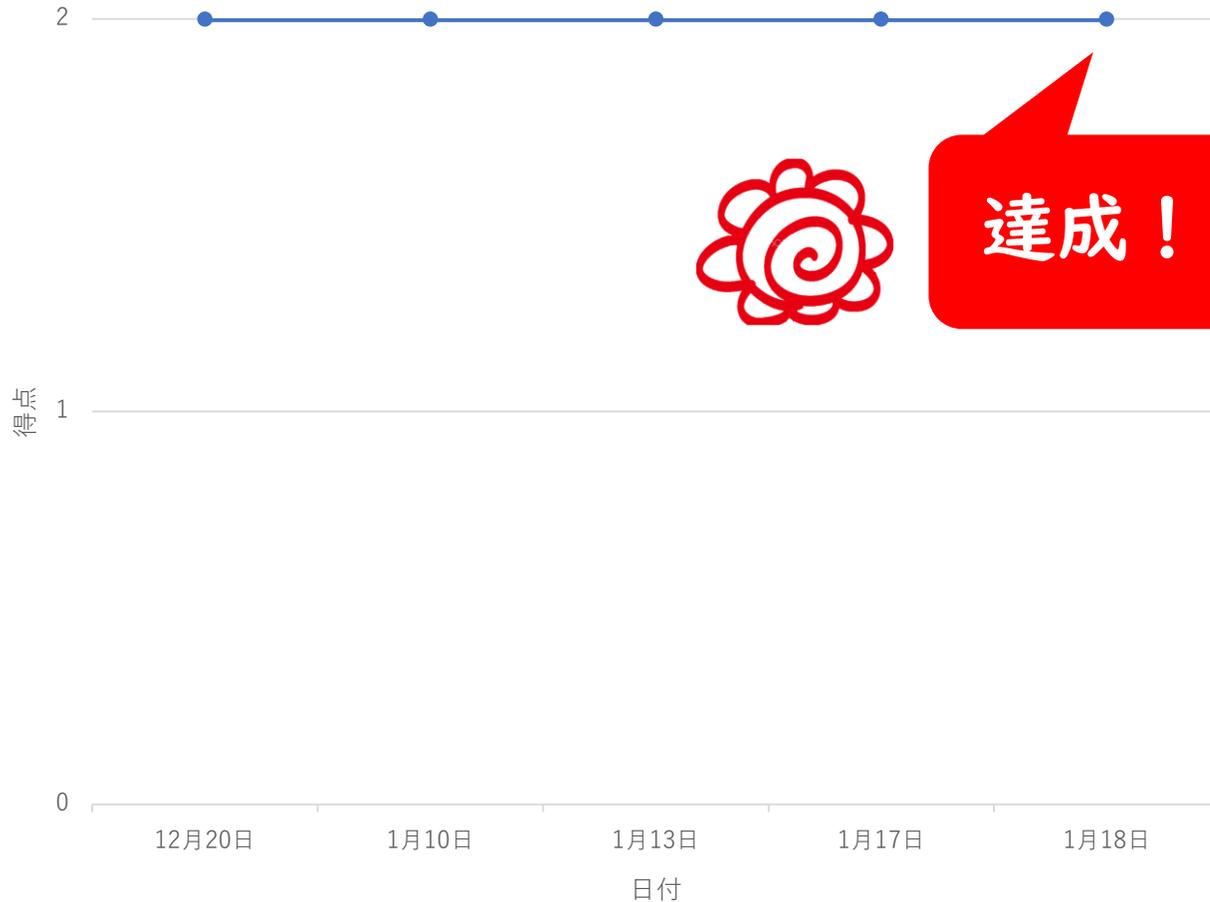
として、グラフ化する。

☆ 指導目標の記録とは別に、待ち時間か否かにかかわらず不適切な行動が何回出たかを記録する。

タイマーが鳴るまで待ちグッズを使用しながら席で過ごすことが
5日連続でできたら目標達成とする

結果 (STEP2)

事前に定められていない急な待ち時間（例：給食前、トイレの順番待ちなど）のときに、「待ちグッズリスト」から待ちグッズを選んで待つことができる。



〔起こった急な待ち時間〕

- ・ トイレの順番待ち
- ・ 図画工作の作品が完成した後
- ・ 給食前

- 2：できた
- 1：プロンプトあり
- 0：できなかった



アドバイザーからの助言③



- ・「待ちグッズリスト」で提示する待ちグッズは、できれば**休み時間に使っているものとは違うもの**を。
→その方が動機づけが高くなる。
難しい場合は、なじみのものと新規のものを混ぜても良いかも。
- ・不適切な行動の回数のグラフを作成するときは、**横軸を「日付」、縦軸を「不適切な行動の回数」**に合わせる。
→

<ul style="list-style-type: none">①「トイレ！トイレ！」という発言②「トイレ！」と言って部屋を出ようとする行動③ものや人への暴力的な対応（他害,もの投げ,破壊）

に類する行動が出た回数を数える。
☆どこまでを1回とするかは事前に定義しておく。
- ・データ化する際は、**ある程度一定の待ち時間を設定する**のが良い。

記録方法（不適切な行動について）

ベースラインを取ったときのものと同じ様式のシートを使う。
待ち時間か否かにかかわらず、不適切な行動が起こったら**日付ごとに記録**し、教員の反応やきっかけも一緒に記録する。

10/24	11:50	① ② ③ 泣き声	叱責あり スルー トイレを促す	x2 他害あり 蹴る 大声 追いかける トイレに逃げる 離席 逃亡 ものを投げる ねこが来る
-------	-------	--------------------	-----------------------	--

① 教員の言葉かけ
② 友だちの突発的な
大きい声
③ その他

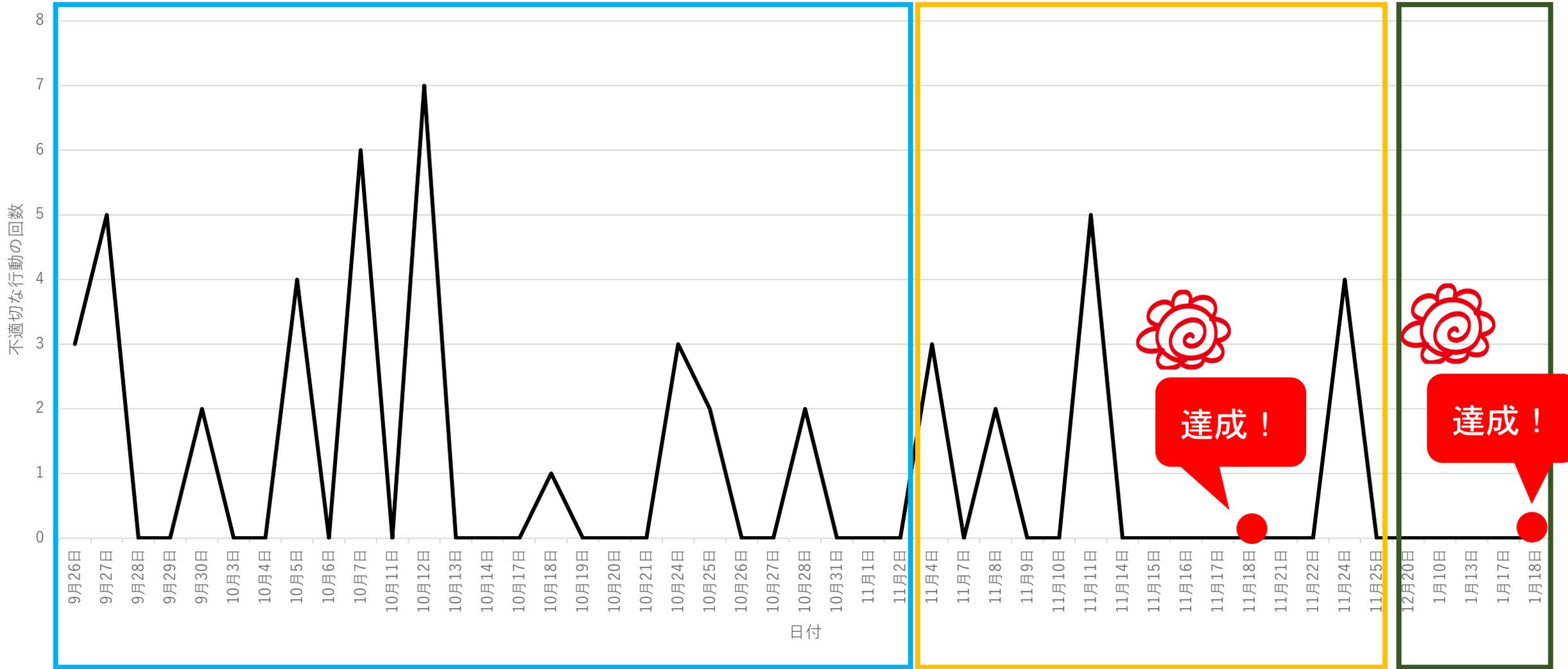
- ・ 1日に複数回起こった場合、**同じ日付の欄に反応があった数だけ**記録する。
(時間帯やきっかけが違っていた場合は、別の欄に記入)
- ・ 動画撮影を行い、待ち時間の前後や児童の活動の流れを記録しておく。
- ・ グラフ作成の際は、**横軸を「日付」、縦軸を「不適切な行動の回数」とした。**

不適切な行動回数の記録 (ベースライン~STEP2)

ベースライン

STEP 1

STEP 2





- 指導開始直後は離席や他害などをする事もあったが、回数を重ねると、「分かった！」と言って着席し、待つことができるようになった。
- 「先生、今から待つ時間だよ」と声をかけてくれるようになり、「待ってるよ」と教員に伝えながら待つ様子も見られるようになった。

「待つことは楽しいことなんだ！」と思えた

- 本児が着席した後、「1から10数えている間にカード持って行くね」等と教員が言葉かけすると、自ら数を数えながら待つ様子が見られた。

待ちグッズがなくても待つことができつつある

成功のポイント①



- ・指導前に不適切な行動の記録を取り,ベースラインを取ったこと。
- ・ベースラインを取った上で,先行事象を整理したこと。

不適切な行動の前後を分析することで,指導目標が絞れた

- ・指導を行うにあたって,待つ時間に本児が好きなグッズを使用できたり,タイマーで時間を設定したりすることを取り入れた。

「自分が選んだ好きなことができる!」と思え,
いつまで待てばよいか見通しを持つことができた

成功のポイント②



- ・指導前に待ちグッズとして使用したいものを児童に提示し、
①児童が興味を持っているか ②タイマーが鳴ったら遊びを終了できるかをチェックしてから指導に取り組んだこと。

実態把握をしっかりと行っていた

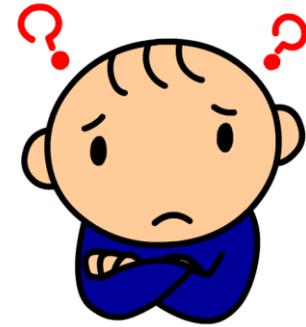
- ・児童が「待つ」ことを意識できるよう、待ち時間に入る前に「今から待つ時間だよ」「待つお勉強しよう」と毎回言葉かけをしたこと。
- ・待ち時間の後、「すごいね!」「待てたね」と称賛したりハイタッチをしたりしながら進めたこと。

「待つ」ことを理解し、待てたことへの自信に繋がった

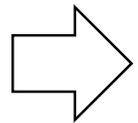
待ち時間を「自分の好きな玩具で楽しく過ごすことができる時間」と考えられるように支援する。

今後の課題

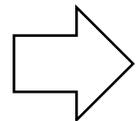
玩具がないと
待てなくなる…？



☆「1から10数えてる間にカード持って行くね」と言葉かけすることで、1から10数えている間は「待ちグッズリスト」がなくても待つことができている。



数える時間を少しずつ増やしていく。



突発的な待ち時間も過ごせるようにするために、
教員が「まつ」カードを提示したときに「リストください」と
伝えることができるように支援していきたい。